

2050年の種子島について意見を出し合う中学生と高校生
＝西之表市の種子島中学校



平和と未来 考えよう

人口減や環境 課題探る

西之表市の種子島中学校で2050年の種子島の姿を考える「未来ワークショップ」があった。種子島高校の生徒も参加し、後輩をリード。人口減や環境問題など市が直面している課題を探り、解決策について意見を出し合った。

種子島中・高校生

種子島中は2020年から、種子島高は14年から芝浦工業大学（東京）と連携し、持続可能な社会の在り方を学んでいる。今回は議論の進め方を学ぶ狙いもあり、初めて中高合同でワークショップに取り組んだ。

20日に開催。両校の2年生

の計約170人が7、8人ずつに分かれ、人口動向や気候の推移といったデータを活用しながら課題を抽出。人口減や空き家の増加への懸念が多く、解決策としてUターン者を優遇する制度や、空き家をカフェや介護施設に活用する案などが出た。

種子島高の上門夕夏さんは「中学生らしい視点もあって面白い。人口減少を身近に感じるだけに、子育て世代への手助けが大切だと思う」。種子島中の高松桜太さんは「高校生が引っ張ってくれて積極的に意見できた。気候変動が心配で、節水や節電など自分ができることをやらなければ」と話した。（緒方隆）

2年生全員（118人）と種子島高校2年生（52人）が合同で行った芝浦工業大学との連携授業「未来ワークショップ」の記事が、南日本新聞に掲載されました。